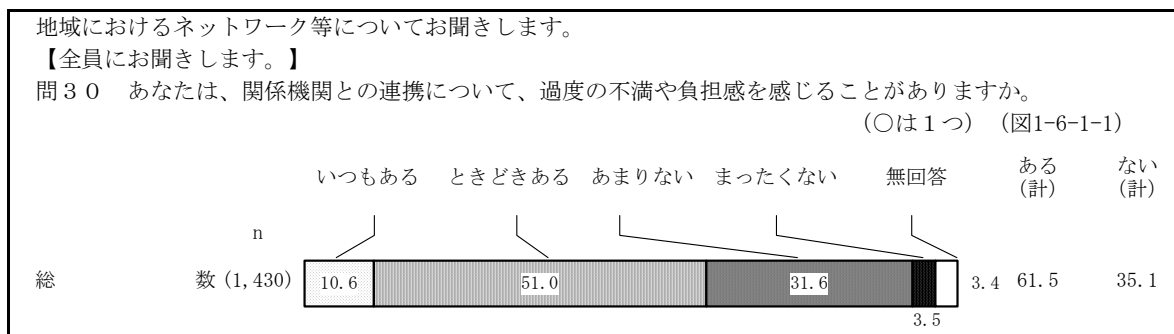


第6章 地域におけるネットワーク等

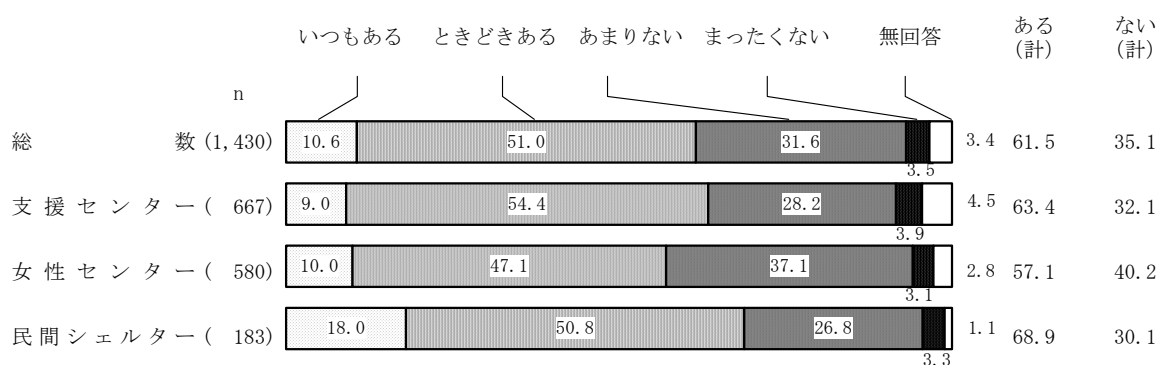
1 関係機関との連携についての不満や負担感



関係機関との連携について、過度の不満や負担感を感じることが「いつもある」(10.6%)という相談員は1割で、「ときどきある」(51.0%)という者を合わせると、過度の不満や負担感を感じている者が6割強である(図1-6-1-1)。

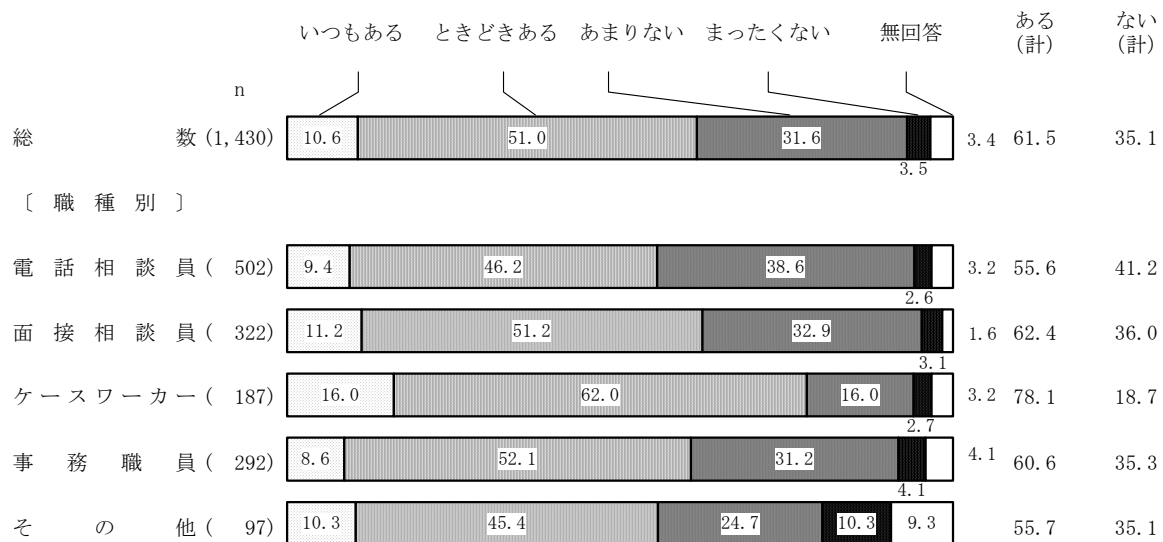
施設属性別にみると(図1-6-1-2)、民間シェルターの相談員の中で、関係機関との連携について、過度の不満や負担感を感じることが「いつもある」(18.0%)という者は2割弱で、「ときどきある」(50.8%)という者を合わせると、不満や負担感を感じている相談員が7割弱である。

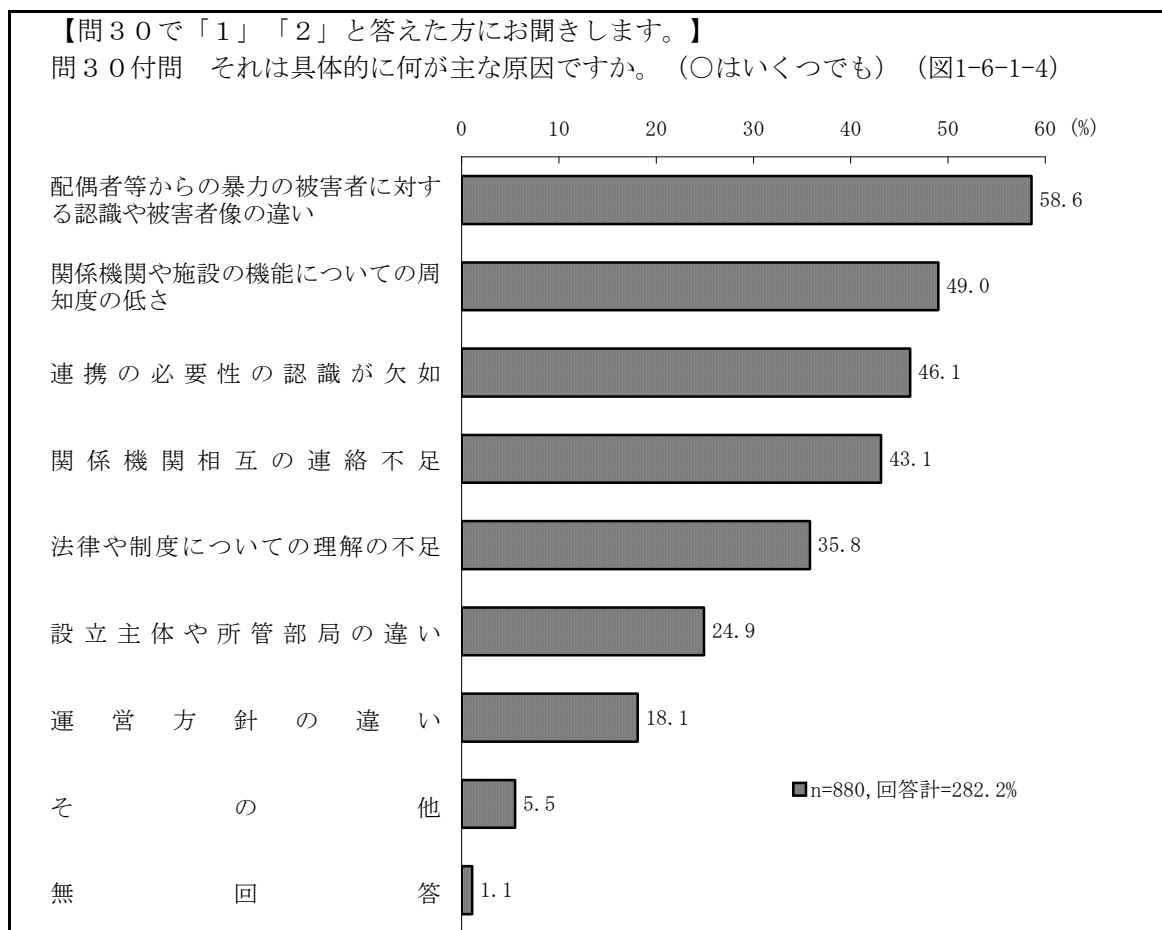
図1-6-1-2 関係機関との連携についての不満や負担感(施設属性別)



職種別にみると（図 1-6-1-3）、ケースワーカーに、過度の不満や負担感を感じるものが「いつもある」者が 16.0%と他の職種より多く、「ときどきある」（62.0%）という者を合わせると 8 割近くが、不満や負担感を持っている。

図 1-6-1-3 関係機関との連携についての不満や負担感（職種別）

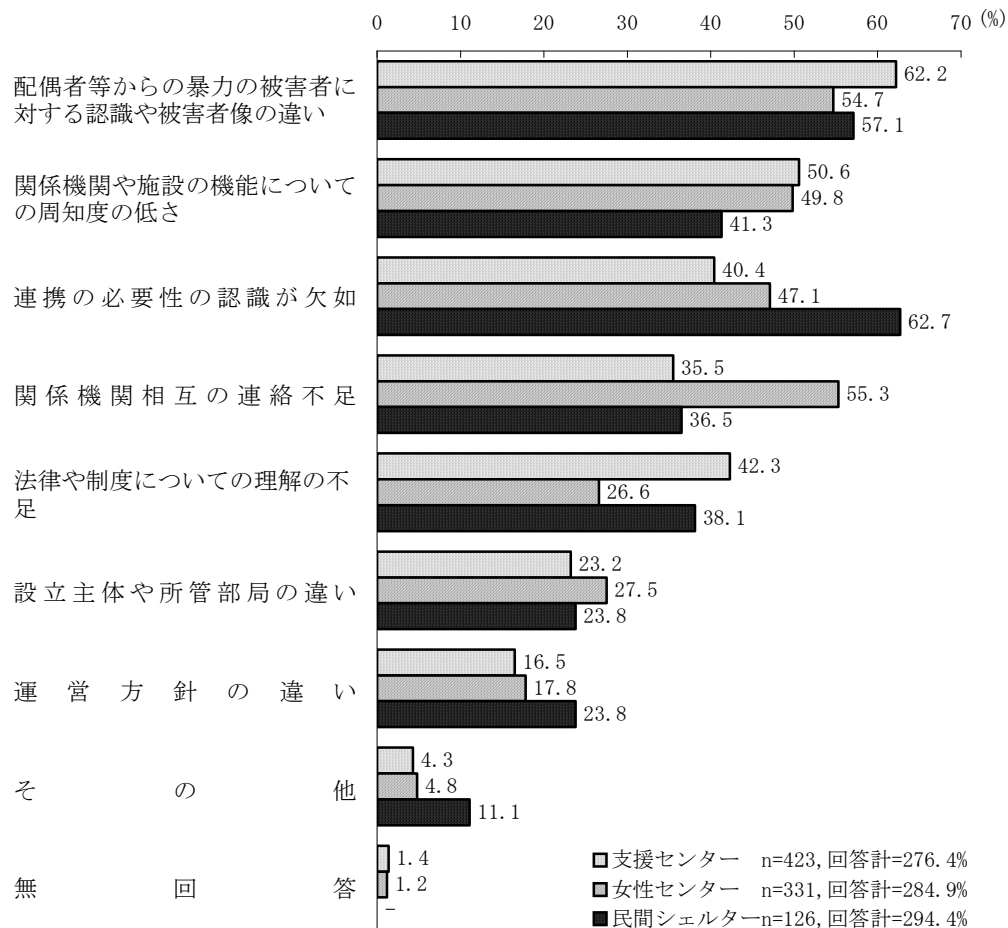




関係機関との連携について、過度の不満や負担感を感じることもある相談員（880人）の不満や負担感を感じる原因としては（図1-6-1-4）、「配偶者等からの暴力の被害者に対する認識や被害者像の違い」が58.6%で最も多くあげられ、次いで「関係機関や施設の機能についての周知度の低さ」（49.0%）、「連携の必要性の認識が欠如」（46.1%）、「関係機関相互の連絡不足」（43.1%）が4割台となっている。

施設属性別にみると（図 1-6-1-5）、支援センターの相談員には「配偶者等からの暴力の被害者に対する認識や被害者像の違い」（62.2%）と「法律や制度についての理解の不足」（42.3%）が、女性センターでは「関係機関相互の連絡不足」（55.3%）が、民間シェルターでは「連携の必要性の認識が欠如」（62.7%）と「運営方針の違い」（23.8%）が、それぞれ他の施設の相談員より多くあげられている。

図 1-6-1-5 不満や負担感の理由（施設属性別）

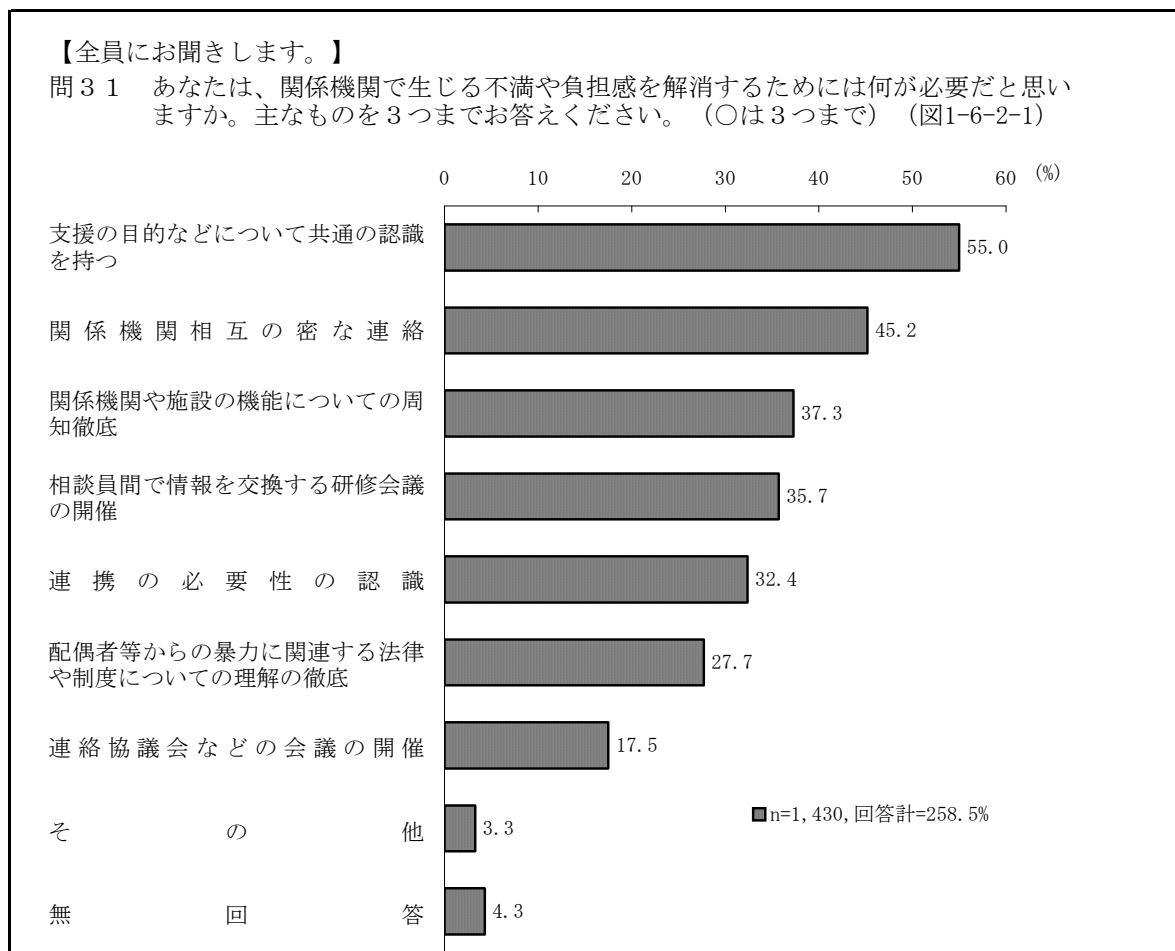


職種別にみると（表 1-6-1-1）、「配偶者等からの暴力の被害者に対する認識や被害者像の違い」はケースワーカー（68.5％）と面接相談員（65.7％）で7割弱と、他の職種より多くあげられている。また、ケースワーカーでは「法律や制度についての理解の不足」（44.5％）も、他の職種より多くあげられている。

表 1-6-1-1 不満や負担感の理由（職種別）

	n	の者配 違に対 い対者 す等 るから の認識 や暴力 の被害 者被害 者像害	い関係 関の機 の関周 知関や 度施 の設 の機 能に つ	連携 の必 要性 の認 識が 欠如	関係機 関相互 の連絡 不足	の法律 や制度 について の理解 不足	設立主 体や所 管部局 の違い	運 営 方 針 の 違 い	そ の 他	無 回 答	回 答 計
総 数	880	58.6	49.0	46.1	43.1	35.8	24.9	18.1	5.5	1.1	282.2
〔 職 種 別 〕											
電 話 相 談 員	279	54.8	50.5	48.0	49.5	32.6	22.9	14.7	3.6	1.4	278.1
面 接 相 談 員	201	65.7	47.3	50.2	43.8	39.3	27.4	22.4	8.0	1.0	305.0
ケ ー ス ワ ー カ ー	146	68.5	47.9	47.3	30.1	44.5	24.0	18.5	7.5	0.7	289.0
事 務 職 員	177	50.3	44.6	40.7	42.9	32.2	26.0	19.8	4.0	0.6	261.0
そ の 他	54	51.9	57.4	38.9	44.4	25.9	22.2	18.5	7.4	3.7	270.4

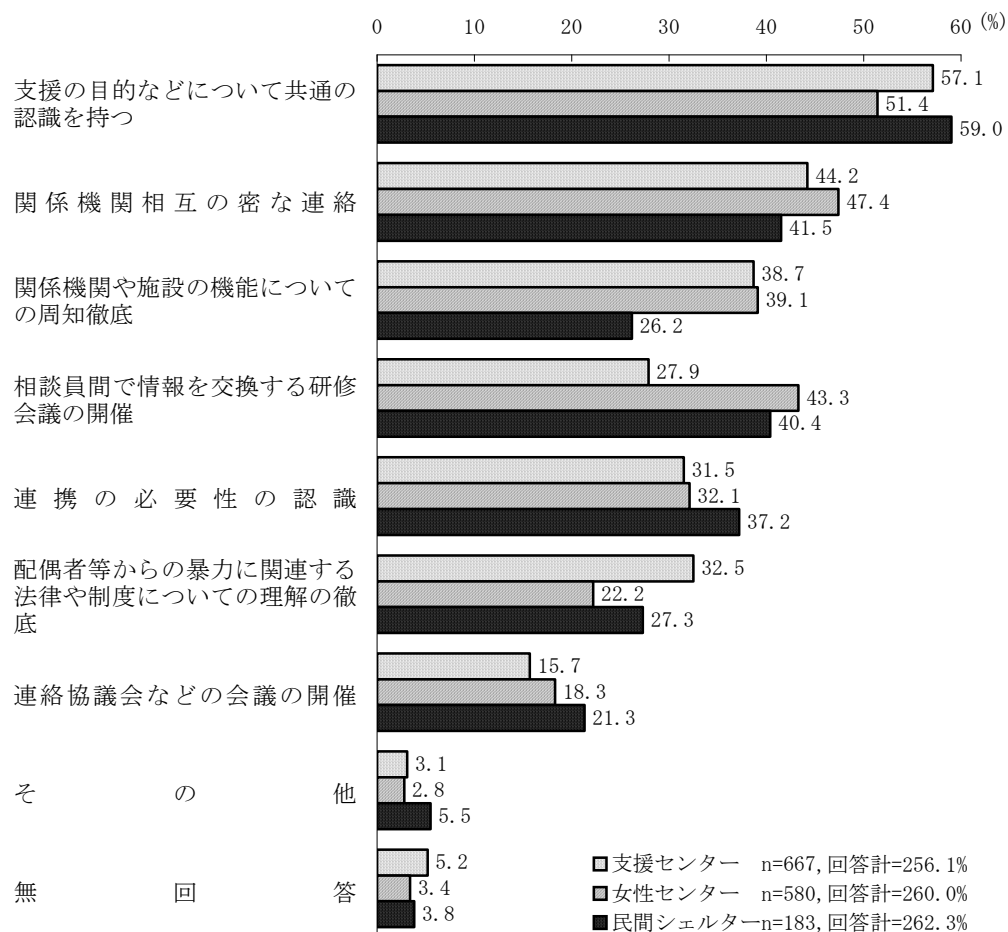
2 関係機関で生じる不満や負担感を解消するために必要なこと



関係機関で生じる不満や負担感を解消するために必要なこととしては（図 1-6-2-1）、「支援の目的などについて共通の認識を持つ」が 55.0%で最も多く、以下「関係機関相互の密な連絡」（45.2%）が4割台、「関係機関や施設の機能についての周知徹底」（37.3%）、「相談員間で情報を交換する研修会議の開催」（35.7%）、「連携の必要性の認識」（32.4%）が3割台となっている。

施設属性別にみると（図 1-6-2-2）、「連携の必要性の認識」は民間シェルターの相談員（37.2％）に、「配偶者等からの暴力に関連する法律や制度についての理解の徹底」は支援センターの相談員（32.5％）に、それぞれ多くあげられている。

図 1-6-2-2 不満や負担感解消のために必要なこと（施設属性別）



職種別にみると（表 1-6-2-1）、ケースワーカーで「支援の目的などについて共通の認識を持つ」（64.7%）と「連携の必要性の認識」（38.0%）が、電話相談員（43.2%）で「相談員間で情報を交換する研修会議の開催」は電話相談員（43.2%）が、それぞれ他の職種より多くあげられている。

表 1-6-2-1 不満や負担感解消のために必要なこと（職種別）

	n	支援の目的などについて共通の認識を持つ	関係機関相互の密な連絡	関係機関や施設の機能について周知徹底	相談員間で情報を交換する研修会議の開催	連携の必要性の認識	配偶者等からの暴力について理解の徹底	連絡協議会などの会議の開催	その他	無回答	回答計
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,430	55.0	45.2	37.3	35.7	32.4	27.7	17.5	3.3	4.3	258.5
〔職種別〕											
電話相談員	502	54.0	47.4	39.0	43.2	31.3	25.9	18.1	1.6	3.6	264.1
面接相談員	322	57.5	43.5	34.5	36.6	32.9	30.7	16.1	4.7	3.7	260.2
ケースワーカー	187	64.7	36.9	34.8	27.3	38.0	31.0	13.4	4.3	5.9	256.1
事務職員	292	49.0	47.9	37.7	30.5	31.8	23.6	21.2	3.4	4.8	250.0
その他	97	52.6	43.3	39.2	24.7	30.9	25.8	18.6	5.2	7.2	247.4